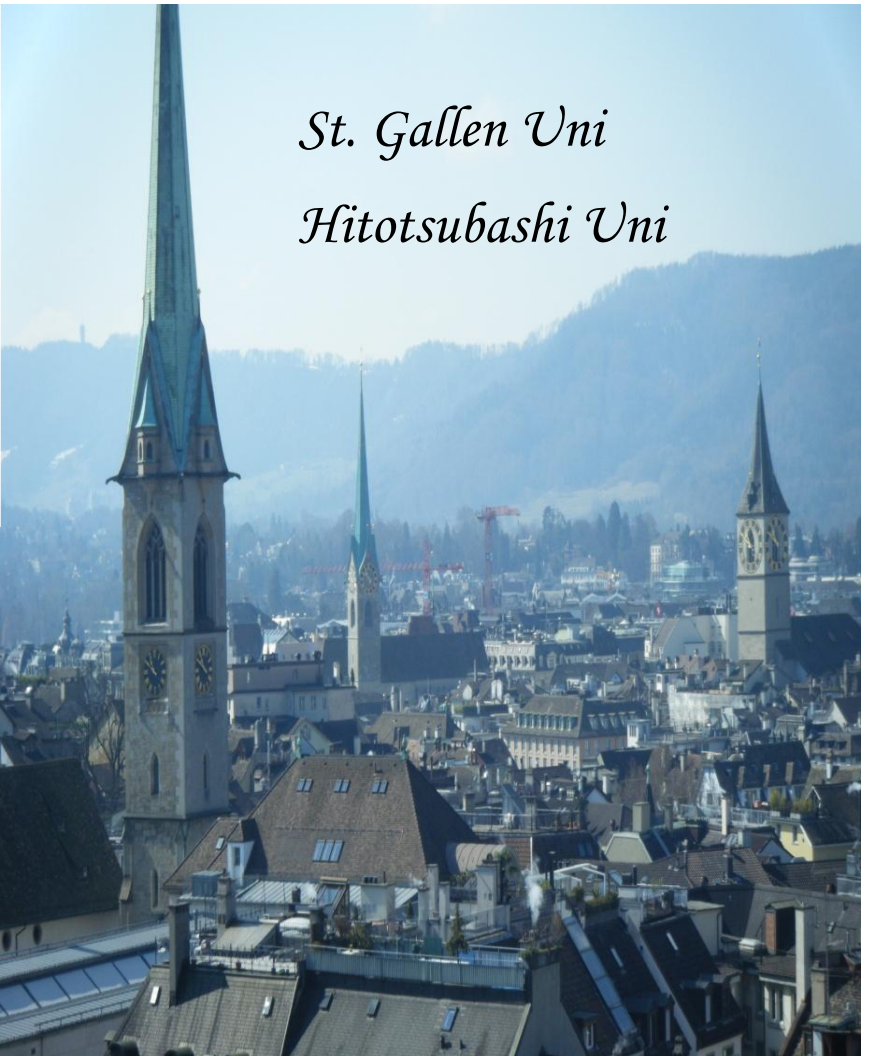


Swiss Project



St. Gallen Uni
Hitotsubashi Uni



GET2009 スイスプロジェクト チーフ挨拶

GET のプロジェクトを一年間無事に終えることができ大変うれしく思っています。GET のプロジェクトにおいて一番大きなイベントとは合計1ヶ月にわたる相互交換ホームステイです。お互いに同じ部屋に寝泊りするということは簡単なことではありません。言葉の壁はもちろんのこと、価値観の違い、金銭感覚の違いなど「違い」はいたるところに存在します。習慣の違いからけんかのようなになったときさえありました。しかし、私たちの目的はその「違い」を「対立」として考えるのではなく「違う」からこそその違いを認め合うことでした。言葉で言うことは簡単ですが実際に自分とまったく違う意見を認めることは難しいことです。しかし、それを可能にしたのは世界共通の価値観である「優しさ」であったように思われます。今後プロジェクトのメンバーは留学・就職などと自らの目指す夢へと歩いていくことでしょう。そのときには価値観の違いで立ち止まったり、悩むこともあると思います。そのときにはこのGETでの経験を思い出して「対立」ではなく「優しさ」でその壁を乗り越えていってほしいです。

最後になりますがGET09のプロジェクトに協力してくださったスイス大使館の皆様、小平市国際交流協会の皆様、国際協力銀行、顧問の太田先生、OBOGの皆様、ドイツプロジェクトのメンバーには感謝の念を申し上げます。そしてプロジェクトを通して支えてくれたスイスプロジェクトのメンバーには感謝の念を伝え切れません。

GET09 スイスプロジェクト チーフ

石田賢慈

I've always dreamt of traveling to Japan. That's why I didn't hesitate one moment when I heard of the exchange program that the Asia Students Association (ASA) offers in cooperation with students from the Hitotsubashi University Tokyo. I wasn't disappointed; right from the start Japan enthralled me with its unique mix of tradition and modernity. From the gardens of Kyoto to the seemingly endless city of Tokyo the impressions were simply overwhelming.

In the chaos of Tokyo's central station we finally met our exchange partners. At first both sides were a little bit tentative because of the cultural differences, but very quickly things started to loosen up. Pretty soon the magic of Karaoke and Sake would shatter the remaining barriers. Our exchange partners gave us an insight into Japan that we could never have acquired otherwise. We saw so much: the wonders of Tokyo, the glory of Fuji-san, but also a peek into everyday life in Japan. The food was great, the hospitality exemplary and friendships grew. Alas, before we knew it our two weeks in Tokyo were over. Heartbroken we returned to Switzerland.

Shortly after arriving back home our exchange partners came to St. Gallen. Proudly we showed our friends our home, traveling around Switzerland to the Matterhorn, Geneva, Bern and Zurich. We were delighted to share our country with them as they had done for us.

The exchange is over by now, but unforgettable memories remain. We gained a deeper respect and understanding for Japan and treasured friendships. The bond between the University of St. Gallen and the Hitotsubashi University Tokyo is strong and future generations of students will maintain by continuing this exchange program. I still dream of Japan, the lights of Tokyo and the peacefulness of Miyajima, and hopefully I will return someday.

GET2009 Japan-Switzerland Project Chief of Swiss Team

Benjamin Newman Martinez

スイスPJメンバー紹介

●日本人メンバー●

石田 賢慈

学部ー社会
学年ー2年
役職ーチーフ



●スイス人メンバー●

Benjamin Newman Martinez

Major: International Affairs
and Governance

澤田 雄

学部ー経済
学年ー2年
役職ーサブチーフ
Web 係



Philipp Thienel Major: Business Administration

岡田 和美

学部ー商
学年ー2年
役職ー渉外
ジョイント
フォーラム



Larissa Zengerling Major: business studies

中井 和弘

学部一商
学年一2年
役職一会計



Fredrik Isler
Major: Business
Administration

清水 洋平

学部一経済
学年一2年
役職一日程



Raphael Gaehwiler
Major: Business Administration

相浦 沙絵

学部一経済
学年一2年
役職一保険



Vera Kuehne
Major: Business Administration

梅村 百代

学部—社会

学年—1年



Nicola Franziska Goll

Major: Assessment-Year

常安 郁彌

学部—社会

学年—2年

役職—韓国 PJ

チーフ



Matthias Vering

Major: Business

Administration



Deborrah Schae

(左)

Major: Business

Administration

田尻 佑介

学部—法

学年—2年

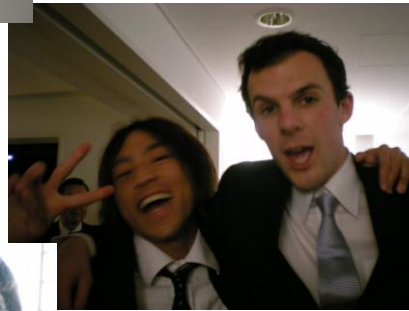
役職—韓国 PJ サブ

チーフ

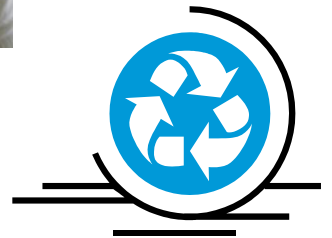


Gregor Stadelmann

Major: Business Administration



Days in Japan



- 2/9: 上野, Welcome party@スイス大使館
- 2/10: Joint Forum, 秋葉原、浅草
- 2/11&12 箱根旅行
- 2/13 Free Day
- 2/14 日本文化体験 Day@小平
- 2/15 Joint Forum, 浜離宮、築地
- 2/16 造幣局, ボーリング, Club
- 2/17 Free Day
- 2/18 JBIC, 皇居, 六本木, 東京タワー
- 2/19 歌舞伎, 原宿, Farewell Party



2 / 9 (Mon) Swiss Embassy Day

Planner's name: 石田 賢慈



- 10:30 東京駅集合
- 上野にて昼食
- 上野、御徒町（アメヤ横丁）散策
- 渋谷に移動
- スイス大使館官舎にてパーティー
- 各自の家にパートナーと帰宅

感想 この日は初日ということもあり日本人、スイス人ともに少し緊張しているように思われた。特に、最初の待ち合わせのときはお互いに初対面であるためスイス人を見つけてもなかなか声を掛けることが出来なかった。しかし、スイス大使館の官舎のパーティーで少しお酒が入るとお互いに親密になることが出来ているんな話をした。

2 / 10 (Tue) Joint Forum & Akihabara & Asakusa Day

Planner's name: 岡田 和美



- 9:50 に一橋大学集合
- 文化についてのジョイントフォーラム
- 昼食はロージナ茶房にて
- 秋葉原をグループに分けて散策
- 浅草の雷門近辺で自由行動
のち白魚専門店で夕食
- 浅草で解散

感想 ジョイントフォーラムでは、題材がお互いの文化についてだったので、会話もはずみ、その後の会話のトピックにもなり、充実していた。秋葉原では、メイドカフェに行ったスイス人から「想像以上に異様な空間だった」という感想を聞けて、日本の独特な一面を見せられたことに満足した。メイドの話題はスイスでも絶えることがなかった。浅草は日本らしい物が豊富だったので、スイス人は喜んでいた。

2 / 11 (Wed) Hakone Day

Planner's name: 清水 洋平



- ・ 9:50 に新宿駅集合
- ・ 小田急線で小田原へ
- ・ 昼食を蕎麦屋で
- ・ 小田原城見学
- ・ ホテル「おかだ」宿泊
- ・ 部屋で大宴会

感想 受け入れ期間で唯一の旅行は日本らしさを求めて 1 泊 2 日の箱根旅行へ。小田原城の見学では、日本文化に興味のあるスイスの学生に質問攻めに苦勞していたメンバーもいたが、ともに楽しんでいた。ホテルでは、スイス人お楽しみの温泉に入り、修学旅行らしくお食事をいただいた後は、コンビニで買いこんだ酒で大宴会。かなりの盛り上がりを見せ、早くも親密度が増したようだった。

2 / 12 (Thu) Hakone Day

Planner's name: 清水 洋平



- ・ チェックアウト後、ロープウェーなど乗継いで大涌谷へ
- ・ 散策、黒玉子試食
- ・ レストランが小さいため、昼食は2つのグループに分かれた
- ・ 小田急線で新宿へ、そして現地解散

感想 箱根旅行 2 日目は近くの大涌谷へ。ここからは富士山が綺麗に見えるということで日本人・スイス人ともに期待にしていた様子だったが、さすがは日本一美しい山だけあって見事に応えてくれた。そこで、食べると寿命が 7 年延びると噂の黒玉子を食べながら「これでタバコを吸っても大丈夫だ」などと言っていたのは果てして誰だったか？ 帰りの電車では、さすがにみんなの顔にも疲労感が見えていた。

2 / 14 (Sat) Kodaira Day

Planner's name: 梅村 百代



- 一橋学園駅で集合。
- 小平市国際交流センターにて茶道着物着付け、生け花の体験。
- め組にてお好み焼きともんじゃ焼
- 国分寺でスイス人お楽しみのカラオケ

感想 日本文化を体験してもらおうとのことで、昨年お世話になった小平市国際交流センターの方々に今年もご協力をお願いした。スイスメンバーはもちろんのこと、日本でもなかなか体験できることではないので、日本人メンバーも思いのほか楽しめたのではないかと思う。

2 / 15 (Sun) Joint Forum Day

Planner's name: 石田 賢慈



- 一橋大学にてジョイントフォーラム
オリンピックをテーマに話し合う
- マクドナルドで昼食
- 浜離宮を観光
- 夕食は築地にて寿司

感想 ジョイントフォーラムでは「2016年に行われるオリンピックで適切な開催地はどこか？」ということテーマに話し合った。テーマが双方にとって時事的なものであったため議論も活発に行われて勉強になった。浜離宮はビル街の中にある広大な日本庭園でありスイス人だけでなく日本人も楽しんでいた。寿司は初めて食べる人もおり「うに」や「貝」などに少し驚いていたが、ほとんどみんな完食していた。

2 / 16 (Mon) Enjoy Day

Planner's name: 澤田 雄



- ・池袋造幣局を見学
- ・ボーリング
- ・夕食は池袋にてラーメン
- ・渋谷に移動し、HUB で飲む
- ・club VUENOS に移動し、オール

感想 この日は遊ぶ日にしようと思いプランを作成した。ただ、遊びだけでもあれなので、造幣局の見学（無料）を取り入れた。オールすることも考えて、昼集合にした。ボーリングはスイス人学生も慣れ親しんでいるようで、楽しんでいた。HUB での飲み会は、各自がカウンターで会計をするのでおすすめである。クラブ選びは岡田さんに担当してもらった。みんな楽しんでいたようなのでよかった。

2 / 18 (Wed) JBIC Day

Planner's name: 中井 和弘



- ・9:30 JBIC 本社前集合
- ・JBIC 企業訪問後、東京駅にて昼食
- ・国会議事堂見学
- ・皇居、六本木散策
- ・夕食後、東京タワー見学
- ・各自の家にパートナーと帰宅

感想 この日は午前中に国際協力銀行(JBIC)様の企業訪問があった。CEO の方と部長の方にレクチャー頂き、金融危機についての理解を深めた。その後も国会見学や六本木散策、東京タワー見学と時間的には忙しかった。スイス人は六本木ヒルズでの買い物や東京タワーからの夜景をととても楽しんでくれているようだった。

2 / 19(Thu) Kabuki&

Farewell Party Day

Planner's name: 相浦 沙絵



- ・ 10 : 30 に東銀座駅集合
- ・ 歌舞伎を観る
- ・ お昼は東銀座駅周辺の串揚げ屋
- ・ 原宿へ電車で移動
- ・ 明治神宮を散策
- ・ 渋谷まで歩いていき、フリータイム
- ・ しゃぶしゃぶ食べ放題
- ・ カラオケ

感想 日本プロジェクトの最終日。伝統的なものを最後に、ということで歌舞伎と明治神宮へ。歌舞伎は立ち見になってしまい少しお疲れの様子だったがお昼の串揚げ屋さんで元気回復。夜は食べ放題だから…と言いながらもご飯をお代わり。夜はモーパラでお腹いっぱいになった後、スイス人の強い要望で彼らの大好きな日本名物カラオケを楽しみ、プロジェクト最後の夜を締めくくった。

See you again in Switzerland!!



Days in Switzerland



3/19 Day of Arrival	3/25 Chocolate Frey Day
3/20 Bern Day	3/26 Schaffhausen Day
3/21 Zurich Day	3/27 Free Day
3/22 Matterhorn Day	3/28 Lucerne Day
3/23 Geneva Day	3/29 Free Day
3/24 Joint Forum	3/30 Day of Departure



“You and I will meet again
When we’re least expecting it
One day in some far off place
I will recognize your face
I won’t say goodbye my friend
For you and I will meet again”.



3 / 19 (Thu) Day of Arrival

担当者： 澤田 雄



- ・ 17:00 にザンクトガレン駅に集合。
- ・ 各自パートナーの家に行く。
- ・ 夕食はパエリア。
- ・ 飲み屋に移動。
- ・ その後パートナー宅へ

感想 17:00 到着の予定だったが、各自旅行していたので、時間通り到着できなかった人が多かった。ザンクトガレン駅のスタバで待ち合わせだったのだが、到着したとたん安堵の涙が…。その後はみんなそろっての夕食のパエリアを堪能し、クラブに行き盛り上がり、それを終えるとそれぞれパートナーの家に落ち着いた。

3 / 20 (Fri) Bern Day

担当者： 石田 賢慈



- ・ ザンクトガレンからスイスの首都ベルンへ
- ・ 日本大使館訪問
- ・ ベルンの旧市街を散策
- ・ ベルンのシンボルである熊をみる
- ・ ザンクトガレンに戻り夕食

感想 チューリッヒとジュネーブの影となって知名度のあまり高くないスイスの首都ベルン。しかし、そこはいまだに古い町並みを残すとてもきれいな町である。経済の中心であり銀行の立ち並ぶチューリッヒとは一味違う雰囲気だった。日本大使館では一橋大学 OB の大使の方が日本とスイスの関係、これからについてお話してくださり勉強になった。

3 / 21 (Sat) Zurich Day

担当者: 常安 郁彌



- 電車でチューリッヒへ
- チューリッヒ大学見学
- グロス/フラウミュンスター(教会)
- バーンホフショッピングストリート
- チューリッヒ湖を眺めながら昼食
- Freitag store へ
- フリータイム、ザンクトガレンへ

感想 スイス最大の都市、チューリッヒを観光。スイスは内陸国であるが、チューリッヒには湖があり、湖畔での昼食は良かった。教会の上部から街が一望できた。この日は昨年の ASA メンバーであったスイス人も参加してくれて盛り上がった。もちろん Freitag shop(スタイリッシュなりサイクルバックのお店)は私にとってのハイライトであった。夕食をパートナーたちが手作りしてくれたのもいい思い出。

3 / 22 (Sun) Matterhorn Day

担当者: 梅村 百代



- マッターホルン最寄り駅ツェルマットへ
- ロープウェーで標高 3100 メートルの展望台まで上り、マッターホルンを見る
- 昼食を食べる
- ユースホステルのあるローザンヌまで行き夕食を食べる
- ユースホステルに一泊

感想 スイスと言えば、アルプス山脈。ザンクトガレンから 4 時間もの長い電車にも耐えられたのは何よりも楽しみにしていたからであった。雪景色の展望台では、みんなマッターホルンの雄大さに童心に帰ったのか、雪合戦をするなど無邪気に遊んでいた。その後、ローザンヌのなかなかきれいなユースホステルに一泊した。ツェルマットではイタリア語、ローザンヌではフランス語が話されていたのを聞くと、やはりスイスには公用語がいくつもあるのだと、実感した。

3 / 23 (Mon) Geneva Day

担当者：梅村 百代

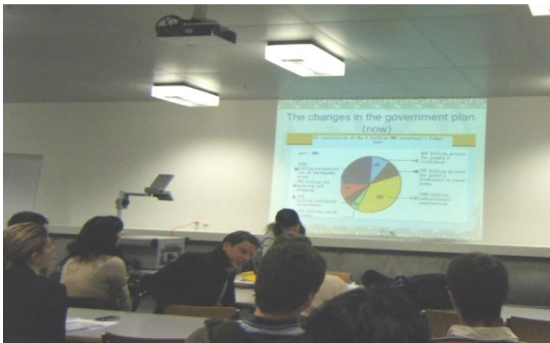


- ・ローザンヌからジュネーブへ
- ・国際連合ヨーロッパ支部見学
- ・昼食にケバブなど食べながら街散策
- ・グループに分かれフリータイム
- ・夕食を電車の中で食べながらゆっくりとザンクトガレンへ

感想 スイス最西部に位置するフランス語圏の街、ジュネーブはレマン湖沿いにあり、日本人もお気に入りとなるほど、とても綺麗な街であった。国際連合ヨーロッパ支部を見学して、街を散策した。その後、あるグループは写真の 140m まで噴きあがる噴水のみもとまで行ったようで、長旅による苦しい男心の解放を象徴してくれたこの噴水は何よりも感慨深い思い出になったようだった。

3 / 24 (Tue) Joint Forum Day

担当者：清水 洋平



- ・北京大学の学生と合同の JF
- ・スイス・中国チームのプレゼン後、8つのグループにわかれ、テーマに沿って議論
- ・ザンクトガレンの修道院と図書館を見学
- ・昼食はバーベキュー
- ・夕食はチーズフォンデュ

感想 スイスでの JF は北京大学と ASA の中国チームと合同で行ったが、議論のテーマが日本の零金利政策の是非など、難しいものであり苦戦を強いられた。ただ、1日中というわけでもなく、グループによってはカフェで雑談などもしたようであった。夕食のチーズフォンデュではお酒も交えて、昼間のまじめな雰囲気とは変わってパーティーのように盛り上がり、国際交流色の強い1日であった。

3 / 25 (Wed) Chocolat Frey Day

担当者: 相浦 沙絵



- ・7:35 ザンクトガレン駅集合
- ・チョコレート工場見学
- ・昼食はスパゲッティ
- ・ザンクトガレンへ戻る
- ・グループに分かれて家などで夕食
- ・Larissa の家で飲む
- ・クラブでパーティ・ナイト

感想 待ちに待ったチョコレート工場見学の日。工場内は2グループに分かれて見学。Fredrikのお父様とその同僚の方に案内していただいた。見学しながらチョコレートをぱくぱく…夢のような体験だった。終わりに袋いっぱいチョコとVictorinoxのナイフまでいただき感謝。お土産代がかなり浮いたと喜ぶメンバーたちだった。その後もテンションは下がることなくLarissa宅でしばらくまったり飲んだ後は、パーティ・ナイトを楽しんだ。

3 / 26 (Thu) Schfhausen Day

担当者: 中井 和弘



- ・高級時計会社IWCを見学
- ・昼食後、円形の城「ムノート城壁」を見る
- ・ヨーロッパ最大級のライン滝を見る
- ・ザンクトガレンへ
- ・夕食はパートナーと食べる

感想 常安と田尻が先に日本へ帰ってしまい、少し寂しくなったGETスイスチームは企業訪問として高級時計会社のIWC見学をした。しかし、前日クラブで踊りまくったメンバーはかなり疲れているようだった。その後、Larissaの故郷シャフハウゼンの街を散策し、ヨーロッパ最大級の水量を誇るライン滝を見た。スイス人は日本人の半端ない疲れを考慮して、予定を変更してくれた。

3 / 28 (Sat) Lucerne Day

担当者: 岡田 和美



- ・ 9 : 30 にザンクトガレン駅集合
- ・ ルツェルンのカペル橋を通る
- ・ ホテルで昼食
- ・ ライオンの像などルツェルン散策
- ・ 雨天により急遽交通博物館へ
- ・ レストランでお別れパーティー

感想 世界最古の木造の橋やライオンの像はスイスの自然の楽しんで滞在において貴重な創造物だった。雨により、楽しみにしていた船には乗れなかったが、交通博物館に行き、予想以上の盛り上がりとし楽しみを得た。またこの日は、お別れを前に食事の会話も止まることがなく、最後の交流を楽しめた。

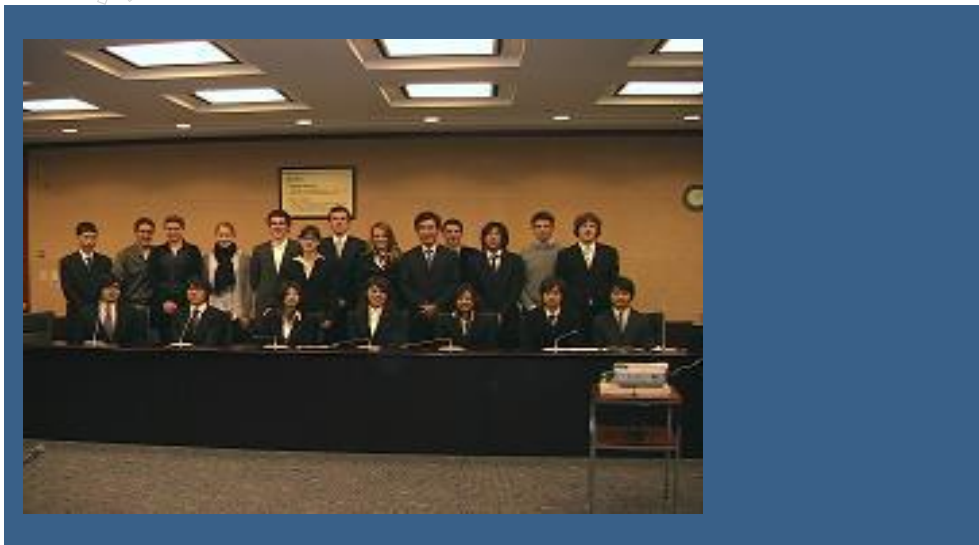
3 / 30 (Mon) Day of Departure

担当者: 澤田 雄



- ・ 朝、ザンクトガレン駅に集合
- ・ 電車でチューリッヒ空港へ

感想 朝、駅に見送りにスイスメンバーが集まってくれた。それぞれ別れの言葉を言い、帰国してもお互い連絡を取り合うように約束した。長く時間をともにしたパートナーに対する感謝の気持ちでいっぱいであった。空港に着くと、これから日本に帰れるという安堵と、スイスでの思い出がこみ上げてきた。



経営責任者

渡辺博史様

外国審査部長

増田篤様

担当者 中井 和弘

経緯

スイスプロジェクトでは、訪問時にスイス人学生が企画するジョイントフォーラムの内容に対応する形で金融危機についてのレクチャーを国際協力銀行の方にして頂いた。国際協力銀行の前身は日本企業の海外での事業にファイナンス提供を行う日本輸出入銀行であり、現在もグローバルネットワークの元に、国際経済社会の健全な発展に貢献している。

一橋大学側メンバーの1人が商学部二年生用前期ゼミナールで、渡辺博史教授（その後 JBIC の CEO に就任）のクラスを受講していたこともあり、渡辺様をお願いしてプロジェクトの主旨をお伝えし訪問を希望させて頂いたところ、渡辺博史様と増田篤様にお時間をお割き頂き、レクチャーをして頂ける貴重な機会を頂けることになった。

訪問

訪問当日は事前に提示して頂いた、金融危機と世界経済の情勢について渡辺様と増田様がプレゼンテーションを行ってくださり、その最後に自由に発言・質問をすることができた。

◆第一部 経営責任者・渡辺博史様によるレクチャー

渡辺様はまず、国際協力銀行(以後、JBIC と表記)の三つのミッションを説明しながら国際経済発展のために日本の金融機関特に JBIC の果たすべき役割についてお話された。その後、用意していただいた資料を基に、1990年代の日本の金融危機と今回のアメリカ発の金融危機の違いについて説明して頂いた。その中で証券化など新しいビジネスモデルが生んだ今回の危機に対して政府や市場の対策が遅れた理由を

説明頂いた。渡辺様の用意された資料には、経済誌「THE ECONOMIST」に掲載された、風刺画風の挿絵が多数載っておりスイス人学生も興味を持っていたようだった。30分のレクチャーにより今回の金融危機の概要が理解でき非常に有益なお話であった。

◆第二部 外国審査部長・増田篤様によるレクチャー

増田様は今回の金融危機とそれに伴う経済の減速をもたらす世界各地への影響について説明して下さいました。まず今回の金融危機が起こった経緯を時系列、要因ごとに整理して頂き、金融業界が受けた損害をデータで示して頂いた。そして、経営不振に陥った企業への公的資金投入や刺激政策を多様な側面から説明頂いた。次にアメリカから世界のその他の地域への波及を貿易マトリックス表も用いながら説明頂いた。最後にアジア諸国への波及について、株価や輸出入、外貨準備高などの推移を元に解説頂いた。増田様の用意して頂いた資料は数多くの図表を掲載しており、今回の金融危機を定量的な根拠を元に分析する意味で非常に貴重なものであった。増田様によるレクチャー後、我々参加学生からの質疑応答の時間を設けて頂いた。スイス人学生からも日本のバブル金融危機との違いなどに関して積極的な質問がされ、増田様にも丁寧にお答え頂いた。



感想・意見

商学・経済系の大学に所属する日本人学生とスイス人学生双方にとって関心の高い金融危機とその後の世界経済動向についてお二人にレクチャーして頂いたため参加学生にとって非常に貴重な機会となった。我々はニュースや新聞等により今回の危機に対する一応の知識は得ているつもりであったが、金融危機を様々な点から定量的なデータを用いて分析して頂いたレクチャーは斬新なものであった。

増田様にはレクチャー後も予定のお時間を大幅に延長して我々の質問に対応して頂き、各人の普段から持っていた疑問が解消されたのではないだろうか。

ご多忙の中プレゼンテーションのご準備と面会にお時間を割いてくださった渡辺博史様と増田篤様、ご関係の国際協力銀行の方に心から感謝を申し上げたい。

GET 2009 Swiss Project Joint Forum In Japan

文責：梅村 百代

テーマ「日本文化の紹介」

◇概要

今回、私たちはプログラムの序盤に一回目のジョイントフォーラムを行うことで、今まで互いに遠慮のあった私たちにも意見を率直に交換できる機会を設けた。また、日本文化の紹介という議論というほど堅苦しくない身近なテーマを用いることで、穏やかな雰囲気で行いたいことも意図していた。

◇大まかな流れ

①日本人によるパワーポイントを使用した紹介

- ・一橋大学の紹介（常安）
大学の歴史や学部などについて
- ・日本語レクチャー（石田）
日本滞在において必要とされるだろう実践的な会話練習について
- ・食文化（澤田）
はし文化など食事マナーについて
- ・折り紙（清水）
伝統文化である折り紙について
- ・過労死（中井）
スイス人の興味のある労働問題について
- ・教育システム（相浦）
スイスとは異なる日本の教育システムについて
- ・漫画・アニメ（梅村）
日本が世界に誇る文化の1つについて

②スイス人による、感想や質問および文化の違いについてコメント

◇感想

英語が不安要素であった私たちにとって、ジョイントフォーラムは最大の山場であったが、テーマを扱いやすいものにしたおかげで有意義な議論を交わすことができた。日本文化を紹介することでスイス人に知ってもらうだけではなく、スイスとの違いを紹介してもらうことで、私たちがスイスを訪問するときの手助けとなった。また、スイス人が発表してくれた教育システムの違いについても、受入れ前に行ったスイスについての勉強会のおかげで容易に理解することができた。

休憩のつもりで行った折り紙体験がとても評判がよく、夢中になってツルを折っていたのが印象的である。もちろん日本人も楽しんでおり、パートナーに折り方を教えることでパートナーとのコミュニケーションも図ることができ、初めてのジョイントフォーラムは成功したと思う。

GET 2009 Swiss Project Joint Forum In Japan

Day 2/14

文責：岡田 和美

テーマ「2016年のオリンピック開催地を決めるのは君だ」

◇大まかな流れ

① パワーポイントを使用した説明

- ・IOCの審査基準の説明。
- ・オリンピックを招致した都市に発生するメリットとデメリットの説明。
- ・各4つの候補地（シカゴ、マドリード、東京、リオデジャネイロ）のインフラ、環境への影響、施設、安全性の面から見た長所と短所の説明。
- ・北京オリンピックを例にとった説明。

② ディスカッション

- ・日本とスイスの学生を4つの混合チームに分け、パワーポイントで主に説明された4つの面から各都市を比較検討し、考察、討論をへて、チームごとの結論を出す。
- ・グループディスカッションの最終意見

<グループ1；東京>

おもな理由：東京は4都市中で最も治安がいい。

一度オリンピックを開催しており、スタジアムを新設する必要がなく、環境に与える影響が少ない。

宿泊施設も他都市と比べて、充実している。

<グループ2；リオデジャネイロ>

おもな理由：オリンピックの商業利益に着目して、オリンピック開催が開発途上国であるリオデジャネイロの発展に寄与する。

南米大陸でオリンピックが開催されたことがない。

<グループ3；シカゴ>

おもな理由：治安が悪いという面からリオを除外して考え、開催地が、アジアにある北京、ヨーロッパにあるロンドンと続くので、アジアでもヨーロッパでもないシカゴが順番として最適。

<グループ4；マドリード>

おもな理由：各都市の項目ごとに点数をつけた結果、点数合計でマドリードが一番高得点であった。

マドリードが4つの項目にわたって平均的に水準をみたしているから。



- Basic information about Beijing Olympic Games
- Transportation Infrastructure
- Environmental problems about the Olympic

Basic information about Beijing Olympic Games(1)

- The 2008 Summer Olympic Games was a major international multi-sport event that took place in Beijing, China, from August 8 to August 24, 2008.
- A total of 10,500 athletes competed in 302 events in 28 sports, one event more than was on the schedule of the 2004 Games.

Basic information about Beijing Olympic Games(2)

- The Games saw 43 new world records and 132 new Olympic records set. A record 87 countries won a medal during the Games. Chinese athletes won 51 gold medals altogether, and the United States won 110 medals. Michael Phelps broke the records for most golds in one Olympics and for most career gold medals for an Olympian.

Transportation Infrastructure(1)

- To prepare for Olympic visitors, Beijing's transportation infrastructure was expanded.
- Within the city itself, Beijing's subway expanded to more than double its capacity and overall size, adding an additional 7 lines and 80 stations to the previously existing 4 lines and 64 stations, including a new link connecting directly to the city's airport.

Transportation Infrastructure(2)


- 300,000 heavy-polluting vehicles have been banned from operating within the city, and entry into Beijing by vehicles has been strictly limited.
- The boosted public transport network is expected to absorb the demand created by these restrictions and the increase of visitors, which is estimated at more than 4 million extra passengers per day.

Provision for environmental problems(1)

- Beijing is spending billions of dollars to relocate some 200 polluting factories, and to lay down the pipelines and infrastructure for substituting natural gas for coal, which is a principal source of air-borne particles.

Provision for environmental problems(2)

- More than 2,000 buses and 5,000 taxis are being upgraded or replaced with cleaner models, and five new urban railways have been added to the public transport system.



◇JF を終えた感想

日本人にとっては自国の都市でもあり、スイス人にとっても、東京に滞在しているという思いがあるので、東京を推すグループばかりではないかという懸念があったが、最終的には4つのグループすべてがそれぞれ違った都市を推す結果となり、白熱した討論が展開された。実際の選考も、私たちが考えた以上に多くの項目を考慮し、またさまざまな人々の意見や見解を総合して、ようやく出る結果なのだということを実感できた。また、オリンピックという世界規模の話を、スイスの学生とディスカッションしたことにより、自分の意見を日本の立場だけでなく、他国の立場も考慮しつつ客観化できたので、とても意味のあったディスカッションであった。

スイス Joint Forum～Government role in business

文責：清水 洋平

1. はじめに

3月24日、ザンクトガレン大学にて一橋大学・ザンクトガレン大学・北京大学の学生らによる Joint Forum が1日かけて行われた。

ザンクトガレン大学の学生によるプレゼンの後、私たちは8つの小さなグループに分かれ、それぞれのグループで議論していった。途中にはザンクトガレンにある世界遺産を見学し、昼食にバーベキュー、夕食にチーズフォンデュを食べるなど議論だけではなく、国際交流も図った Joint Forum となった。

2. 概要

09:30～10:00 ザンクトガレン大学の学生による Power Point を用いたプレゼン

10:00～10:30 北京大学の学生による Power Point を用いたプレゼン

10:30～ グループごとに分かれて、Check point1,2を議論
途中に昼食(バーベキュー)・世界遺産見学を行う

Check point① 日本のゼロ金利政策の是非と現在の金融危機への教訓は何か？

Check point② 中国の通貨に関する政策とそれによる世界経済への影響とは？

16:30～ ザンクトガレン大学に全グループが集まり、経済の専門家と共に世界金融危機の影響とそれによってスイス経済をどうすべきかについてディスカッション

18:30～ 夕食(チーズフォンデュ)

3. プレゼンおよび議題

各グループの Check point1,2 議論の内容は把握できないため、ザンクトガレン大学の学生によるプレゼン「Economic Policy in Switzerland」を紹介する。

Economic Policy in Switzerland

Joint Forum 2009
Fabian Klingler
Raphael Gähwiler

Universität St.Gallen

Agenda

- Causes of the financial crisis
- Financial crisis
- Impact on Switzerland (example UBS)
- Measures taken by Swiss government
- Outlook

Universität St.Gallen

Causes of the financial crisis

- Assumption of rising house prices in U.S.
- Complex securitization processes of mortgages
- Banks „blindly“ follow rating agencies
- As house prices start to depreciate, a lot of debtors are not able to pay the interest rate anymore
- Credit losses by banks

Financial crisis becomes economic crisis

- Banks are forced to write off a big part of their assets
 - Reduction of Equity
 - Liquidity problems
- Interbanking credit markets dry out
 - Loss of trust
 - Interest rates rise
 - As a consequence, even solid, healthy producing companies are not given credits anymore

Impact on Switzerland

- UBS follows an expanding strategy in U.S
- After high write offs, UBS is seeking for new capital
 - Capital raise of over 10 bn CHF by several middle eastern and far eastern countries
- UBS is forced to write off again several bn CHF
 - Swiss national bank provides help in cooperation with Swiss federal council

Measures taken by Swiss government

- „Toxic“ assets are being transferred to a new company run by the Swiss National Bank
- Switzerland as a country is investing 6 bn CHF in UBS
- To support national economy, the Swiss government spends 700 million CHF in form of a stimulating program
- A second stimulating program is under discussion at the moment to provide Swiss economy with capital

Outlook

- Swiss economy expected to shrink by 2.2% in 2009
- Big pressure on Swiss federal council
 - Bank secrecy
 - Internal pressure by political parties
 - OECD

Questions?

4. 感想

1日かけて行われた Joint Forum は英語漬けであったスイスプロジェクトの中で山場とも言えるプログラムであった。北京大学やザンクトガレン大学の中国チームも含めグループに分かれ議論が行われたが、カフェに行き雑談するところもあり、また昼食や夕食も一緒であったりしたおかげか、和やかな雰囲気で行うことができた。ただ、私も含めた日本人メンバーは自身の英語力不足だけではなく、経済についての勉強不足を実感したことで、このプログラムがよい刺激となったと思いたい。